

玉名環境フェスティバルで特別講演をしました

内野明德センター長は、2008年12月6日に行われた玉名環境フェスティバル(主催:環境応援団エコの環たまな,共催:再春館「一本の木」財団,後援:玉名市)で特別講演を行いました。「有明海とはどんなところ?—起源と特徴—」と題して、有明海の持つ特徴を分かりやすく解説しました。当日は厳しい寒さにもかかわらず、九州看護福祉大学の講演会場では約60名の聴衆がメモを取りながら熱心に聞き入っておられました。

市民公開講座および 体験実習が開催されました

研究成果の地域への還元および干潟浅海域に関する環境教育の充実を目的として、一般市民を対象に、第7回市民公開講座「有明海・八代海を科学する」および体験実習が、熊本県水産研究センターとの共催で、2008年10月1日から11月5日にかけての毎水曜日(18時30分~20時)、熊本県民交流館パレアで開催されました。沿岸域センターの5教員と熊本県水産研究センター浅海干潟研究部研究主任松尾竜生氏が、講師を務めました。受講者は平均43名で、皆勤の受講者には最終回に内野センター長から終了証が贈られました。10月23日には、熊本県水産研究センターおよび熊本大学合津マリンステーションで、実習船での調査およびプランクトンの顕微鏡観察が行われ、11名が参加しました。概要は沿岸域 [HP](http://engan.kumamoto-u.ac.jp/index.html) (<http://engan.kumamoto-u.ac.jp/index.html>) に掲載されています。



養殖魚への投餌(熊本県水産研究センター)

3大学シンポジウム in 熊大 白熱し盛会でした。

熊本・佐賀・長崎3大学合同:第5回「みらい有明・不知火」シンポジウムを、熊本大学工学部二号館223教室で、平成20年11月22日に開催しました。有明・八代海での、赤潮、貧酸素



水塊、2枚貝(ハマグリ)の資源管理、漁場管理、魚類、底質変動、底生環境特性などさまざまな最新の研究成果が講演されました。ポスターセッションにも数多くの研究成果が発表されました。大学の研究者・学生とともに行政、民間、一般と幅広く約90名もの参加があり、熱心に白熱した議論が交わされ、大変に実りあるシンポジウムとなりました。来年は佐賀大学で開催されることが決まりました。

